



# わかみどり

<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>



## マラソン大会

今年も学校のアケビが大きく実りました。紫色になり実が割れてきたので、希望する子どもが家に持ち帰りました。おいしく食べてくれたかな？

アケビと言えば、マラソン大会を思い出します。昔、瀬波小学校のマラソン大会は松波町から温泉街へ抜ける海岸通りで行われていました。待機場所が松林近くだったのですが、見つける名人はいるもので、松林の中へ入っていきアケビを採ってくるのです。「どこにあったん？」「そこ。まだあるけど高くて（取れない）。」「あ、ほんとだ。」名人意外は松の枝などを投げつけるのですが当たることはなく、そんな様子を見た先生が「遊ぶな！」と一喝。それでも、先生に隠れて分け合って食べた記憶があります。

さて、昨年から当校のマラソン大会を中止したわけですが、校長の考えを伝える場がありませんでした。紙面は限られますが私の考えをお伝えします。

### 理由1 学習指導要領から

○ 学習指導要領（全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めており、これを「学習指導要領」といいます）には、各学年の体づくり運動の領域で下記のように示されています。

低学年：かけ足 無理のない速さで2～3分

中学年：一定の速さでのかけあし 無理のない速さで3～4分

高学年：無理のない速さで5～6分程度の持久走 競争を求めてはいないのです。

### 理由2 教育活動の精選から

○ 価値のない教育活動はありません。例年通りやっているからという活動を見直し、本当に必要なのか考えました。

○ ある程度の練習期間があり、子どもがめあてに向かって力を付けることは大切です。学校では業間運動と称してグラウンドを走ったものです。しかし、教員の負担が大きく、効果に疑問が残ります。

○ 大会に向けた試走、めあてタイムの設定、2回目の試走…、大会のための授業では、学習内容が不明確です。競争を強いると、マラソン嫌いの子どもの増やすこととなります。

### 理由3 子どもの体力実態から

○ 体力に大きな負荷がかかるマラソンは非常に心配です。応援を受けて自分の力以上に頑張る可能性があると思います。事前調査で問題がなくとも、マラソン練習中に死亡した子どももいます。

○ 長い距離を走ることを嫌がらない子ども、競争したい子どももいます。元旦マラソンなど学校外の大会にチャレンジしてほしいです。

20年くらい前に文科省の中央研修で岐阜県に行ったときのこと。「筑波大学の体育を専攻する学生が最も嫌いとする運動はダントツでマラソンです」と講師の方が話をされました。競争型の授業を反省し、マイペースで続けて走る力を育てる授業づくりが重要です。（校長 南波裕）

# コンクール入賞者

コンクール・発表会において、下記のように素晴らしい成績を収めました。  
入賞を果たしたみなさん、おめでとうございます。



## 村上市人権標語コンテスト 小学生の部

最優秀賞 5年 遠山 彩羽さん 「見つけたよ きみの中の 光るもの」  
佳作 6年 佐藤 滉稀さん 「あの子の手 つないであげよう 助け合い」

## 神林地区科学研究発表会

4年 齋藤 優和さん 「バナナの日焼け」  
6年 齋藤 瑠愛さん 「いちばん保冷効果があるものを探せ！」

## 第59回 村上市岩船郡児童生徒科学研究発表会

入賞 6年 齋藤 瑠愛さん 「いちばん保冷効果があるものを探せ！」  
※県科学研究発表会へ推薦

## 村上市花火大会 in 清流あらかわ絵画コンクール

優秀賞 2年 田中 結衣さん  
入賞 4年 石田 柚稀さん



## 地区を再発見 まち巡りウォーク

10月20日(金)、4～6年生は平林地区を歩く「まち巡りウォーク」を行いました。

4つのウォークコースに分かれて、水害の話やお寺の歴史、地域の話聞くことができました。

高学年は、旧平林小学校の時に聞いたこともあったようですが、改めて話を聞いて新たな発見があったようです。最後はゴール地点とした旧平林小学校で、ドローンの実演を見学させていただきました。

平林の歴史と未来に思いをはせることができる半日の体験活動でした。

